

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	17104001	研究期間	平成17年度～平成21年度
研究課題名	複素構造と解析的・幾何学的不変量の統合的研究	研究代表者 (所属・職)	野口 潤次郎（東京大学・大学院 数理科学研究科・教授）

【平成20年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

複素構造が本質的な役割を果たす数学分野を総合的に研究するために、11個の具体的な項目に分けて目標の達成を図っている。その中で、ネヴァンリンナ理論とCauchy-Riemann構造の等角不変式に関する成果が著しい。

Bergmann 計量や表現論的アプローチからの複素構造不変量の研究や複素代数多様体のモジュライ空間などでも優れた研究成果が出ており、全体的にも着実に研究が進展している。

海外からの研究者の招聘や国際研究集会の定期的開催などが効果的に行われ、外国への情報発信も積極的に行われるなど、我が国のこの分野での数学的地位が高まるべく研究費は効果的に使用されている。

【平成22年度 検証結果】

研究進捗評価結果どおりの成果が達成された。